

# 良き師、良き友、良き出会い

副校長 遠藤 久利

去る10月27日(土)、台風20号の接近で激しい雨が降る中、川和中学校において『音楽を楽しむ集い』が行われました。実行委員長の中山様のお話によると今年でもう23回目を迎えるとのことでした。都筑ヶ丘幼稚園、川和小、都田西小、川和中、川和高校の園児・児童・生徒が出演し、本校からは、4年生の有志156名が参加しました。狭いステージにもかかわらず、川和東小156名の子どもたちは動作をまじえながら〔はじめようコンサート〕〔まきばのこうし〕〔離陸準備完了〕の3曲を披露しました。そのすばらしい歌声に会場からは大きな拍手が惜しみなく贈られ、私は感動と誇らしい嬉しさでいっぱいになりました。

一方、私は個人的な思いで、都田西小の金管バンドや川和中や川和高校の吹奏楽部の演奏を、プログラムをいただいた時からとても楽しみにしていました。

何がきっかけだったのかは今ではよく覚えていないのですが、2年前の5月のある日「ぼくはアルト、副校長先生はテナーね。」と、校長先生の一言で二人してサックスを買うことが決まってしまったのです。楽譜もろくろく読めない、どうやって吹くのかもわからない同士でしたが、吹奏楽団に入っておられるT先生(いつも師匠と呼んでいました)の指導のもと、仕事が一段落すると、4階の音楽ホールに行って練習する日々が始まりました。師匠は、いつでも嫌な顔ひとつしないで、「いいですねえ、いい音ですねえ。」と、褒めてくれるものですから、いい気持ちになってつついその気になって練習したものでした。私は、ある程度自分の体力の限界を分かっていたので、1時間ぐらいで練習を切り上げましたが、M校長先生はそうではありませんでした。くちびるが切れて腫れ上がるまで、指が腱鞘炎になるくらいまで夢中になるのでした。

全く練習タイプの異なる二人でしたが、互いにライバルと認め、うまく吹きたい一心で練習に励んだものでした。時には、家族のひんしゅくを買い、またご近所からのクレームを気にしながらも吹いていました。そして、翌年の3月、児童会が主催した朝の集会活動「ビッグショウ」の予選会を突破し(実を言えば子ども達は大いに甘く採点してくれたのですが)、ステージで一緒に演奏した「茶色のこびん」。決して満足のできる演奏ではありませんでしたが私にとっては生涯忘れることのできない最高の思い出となりました。

あれから、2年半余りの時が経ちました。毎日のように吹いていたサックスは、ずっとケースの中にしまったまま、今ではほこりをかぶっています。

すばらしい歌声に心をうたれ、みんなで曲を演奏する楽しさに触れることができたこの『音楽を楽しむ集い』は、私をほこりをかぶったケースからサックスを取りだしてもう一度吹いてみようという気持ちにさせてくれました。『がんばろう。』、「遠ちゃん、だいぶ上達したねえ。」と若き良き師と今は亡き良き友M校長先生に言ってもらえるように。